別紙1

令和4年度　学習分析事業　改善計画　三原市立田野浦小学校

1．本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		50.9	48.8	46.9	45.7	48.1
	本年度結果 偏差値平均	51.1	48.1	44.4	50.1	48.2	48.2
算数	前年度結果 偏差値平均		49	48.2	49.1	45.3	48.1
	本年度結果 偏差値平均	50.4	48.1	48.9	49.6	47.3	48.8
理科	前年度結果 偏差値平均				49.4	47	48.2
	本年度結果 偏差値平均			48.7	49.6	47.5	48.5
全体	前年度結果 偏差値平均		49.9	48.5	48.4	46	48.1
	本年度結果 偏差値平均	50.8	48.1	47.3	49.6	47.7	48.6

②学習環境分析　Q-U　【1回目】

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
一次支援	人数(人)							
	割合(%)							
二次支援	人数(人)							
	割合(%)							
三次支援	人数(人)							
	割合(%)							
学習意欲	学年(点) 全国(点)							

③全国学力・学習状況調査　正答率平均

教科	国語	算数	理科
前年度結果（対県比）	62（－4）	69（－1）	
本年度結果（対県比）	64（-3）	62（-2）	63（-3）

④学習環境分析　Q-U　【2回目】

		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全体
一次支援	人数(人)							
	割合(%)							
二次支援	人数(人)							
	割合(%)							
三次支援	人数(人)							
	割合(%)							
学習意欲	学年(点) 全国(点)							

2．調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)
【国語】評定1の児童　32名　正答率40%未満の児童54名 【算数】評定1の児童　24名　正答率40%未満の児童　38名

各学年での全国平均との差が大きかった問題は以下の通り
【国語】2年「紹介に対して感想をいう」(47%　全国比－16)3年「道案内の目印を伝える」(67%　全国比－19)4年「案内状を書く」(26%　全国比－35)5年「ことわざ」(22%　全国比－17)6年「話し合いの役割を考える」(58%　全国比－18)「漢字の読み」(35%　全国比－18)
領域別で見ると，学年ごとに課題のある領域が異なることが分かった。

【算数】2年「表の整理」(33%　全国比－14)　3年「四角形をかく」(22%　全国比－23)　4年「口を用いた式」(40%　全国比－18)　5年「直角」(35%　全国比－16)　6年「百分率で割引の式を求める」(36%　全国比－22)
領域別で見ると「数と計算」は，全国比程度もしくはそれ以上の学年が多かったが，「測定」「変化」「データの活用」は全国比マイナスであった。

【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
●国語科における課題は以下の通り
「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」(正答率55.7%　対県比-14.4)
「文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見つける」(32.9%　対県比-7.9)
「配当学年の漢字を書く『はんせい』」(47.1%　対県比-12.4)

●算数科における課題は以下の通り
「百分率で表された割合と基準量から，比較量を求める」(正答率45.7%　対県比-19.1)
「分類整理されたデータを基に，目的に応じてデータの特徴を捉え考察する」(52.9%　対県比-11.7)

●理科における課題は以下の通り
「日光の性質における基本的な理解」(正答率17.1%　対県比-11.5)
「問題に対するまとめを導き出せるよう，実験の過程や得られた結果を適切に記録する」(64.3%　対県比-11.5)

【学級・学年集団について】(1回目のQ-Uをうけて)

●二次支援の児童の割合が高い学年がある。
●二次支援の児童のうち，非承認群の児童の方が多い
●学習意欲は全国平均程度である。

【学級・学年集団について】(2回目のQ-Uをうけて)

●三次支援が必要な児童が減少した。
●要支援群に属する児童が減少した。
●一次支援の児童の割合がほとんどの学年で増加した。
●二次支援の児童のうち，非承認群の児童は減少したが，2回目で新たに二次支援に属する児童が増加した。

3．課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

（※毎月のブロック訪問や授業研で参観させていただきます。また，重点取組は，第2回の指導力向上研修において事例として別紙にまとめ紹介していただきます。）

重点目標　（何を，どの程度達成するか）	達成のための具体的取組　（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 〇学習規律の徹底 〇「ユニバーサルデザインの授業」を柱とした「全員が分かる」授業づくり 〇算数科を中心とした児童の思考を深める発問構成の工夫 〇個に応じた指導方法の工夫と学習意欲の向上	①NRT結果の分析による，各学級・学年の課題の把握と改善計画の立案 ②学習規律の重点取組項目の設定と取組期間の設定 ③ユニバーサルデザインの授業を基本とした授業づくり→「対象児童」の設定とつまずきを想定した発問構成 ④ICT機器等の効果的な活用 ⑤ドリルタイム，家庭学習を活用した反復学習による学習事項の徹底 ⑥TT授業の活用，「放課後学習」等での個別指導を通した学力の課題のある児童への支援	①6月 ②学期に2回実施（取組期間は1週間） ③6月に校内研修実施，授業研究で重点的に取り組む，年間を通して実施 ④⑤年間を通して実施 ⑥「放課後学習」は週3回	〇算数科単元末テスト，同一集団の伸び率，前年度比プラスポイント
【学級・学習集団づくり】 〇児童全員が安心して生活できる学級づくり 〇構成的グループエンカウンターの計画的な実施 〇SRの効果的な活用 〇児童同士がよさを認め合えるような学習の場の設定 〇教師による児童への肯定的評価の継続	①QU結果の分析による，各学級・学年の課題の把握と改善計画の立案 ②「生活のきまり」の徹底による，安心して生活できる学校づくり ③各主任会において，現状と課題及び取組内容の共有 ④構成的グループエンカウンターの実施に向けた校内研修の実施と取組内容の計画作成及び実施 ⑤授業や特別活動を通して，お互いの良さや違いを認め合える場の意図的な設定 ⑥「できたこと」だけでなく，「がんばっていたこと」に視点をおき，肯定的な声掛けをおこなう。	①7月・夏季休業中 ②4月に周知，　年間を通して実施 ③月に1回 ④校内研修：夏季休業中　エンカウンターは月に1回 ⑤⑥年間を通して実施	〇「学校生活満足群」に属する児童の割合の上昇 〇「学級生活不満足群」及び「要支援群」に属する児童の割合の減少 （12月QU実施時に比較）

4．課題解決に向けた重点取組を振り返って

【今年度の成果と次年度にむけた改善点】
〇算数科単元末テストにおいて，同一集団の平均点の上昇が見られた。また，低学力児童の割合も減少した。
〇「学校生活満足群」に属する児童の割合が上昇し，また，「不満足」「要支援群」の児童が減少し，児童が安心して生活できる学級づくりを全校を通して達成できた。

●「知識・技能」領域と比べ，「思考・判断・表現」領域の達成度が低く，今後の授業づくりや発問構成の研修を通してその向上が必要である。
●あらたに二次支援が必要となった児童の分析，手立ての工夫が必要である。また，学年間で満足群の割合の差を解消するための手立ての工夫が必要である。

5．次年度学力調査の目標値

学力定着分析　NRT　偏差値平均

		新2年	新3年	新4年	新5年	新6年	全体
国語	目標値 偏差値平均	50	52	50	50	50	50
算数	目標値 偏差値平均	50	51	50	50	50	50
理科	目標値 偏差値平均			50	50	50	50
全体	目標値 偏差値平均	50	51	50	50	50	50

全国学力・学習状況調査　正答率平均

教科	国語	算数	理科
目標値（対県比）	67（±0）	64（±0）	